

令和 7 年度 第 1 回磐田市廃棄物減量化等推進審議会 会議録

【日 時】 令和 7 年 7 月 28 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

【会 場】 磐田市クリーンセンター 2 階研修室

【出席者】 会 長 吉野 博行
副会長 松本 サチヨ
委 員 鈴木 節子 今泉 佳代
清水 勇 山本 享祐
伊藤 慎弥 永井 新次
鎌田 俊己 三好 明
鈴木 瑠璃子

順不同（11 名出席）

【事 務 局】 環境水道部長、ごみ対策課長、ごみ対策課ごみ減量推進 G 長、
審議会担当職員 2 名

【会議概要】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 環境水道部長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 議事
 - （1）本市のごみ排出量の現状について
 - （2）令和 7 年度の主な取組みについて
 - （3）その他報告事項
- 6 閉会

【意見・質疑の主な内容】

1 開会

〈事務局〉 本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

この廃棄物減量化等推進審議会は、一般廃棄物の減量や資源化の推進、適正処理に関する事等について、市民の代表の方々に審議していただくため、「磐田市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」により設置されております。また、年度替わりに伴い委員の交代がありましたので新たに3名の皆様に委員をお願いしていることをご報告申し上げます。

それでは、ただいまより、令和7年度第一回磐田市廃棄物減量化等推進審議会を開催いたします。

2 委嘱状交付

初めに、「委嘱状の交付」を行います。新規委員3名の方々の委嘱状を机上に置かせていただきました。任期は令和8年6月30日までとなりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

3 環境水道部長挨拶

〈環境水道部長〉 皆様こんにちは。本日はご多用の中、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。今月の広報紙等すでにご案内しているところですが、リサイクルステーションのみの回収であった携帯式扇風機や電子たばこ等の充電式小型家電をこの10月から地区の集積所でも排出できるようにいたします。また、資源循環促進のため、今まで可燃ごみとして処理していましたハンガーやバケツ等の製品プラスチックを容器包装プラスチックと一緒に「プラスチック」という新たな分類を設けて、令和8年4月から一括回収を実施いたします。これからも皆様からいただいた貴重なご意見を参考に資源循環の促進、ごみの減量化、ごみの排出環境の改善に取り組んでいきますので、限られた時間ではございますが、本日も忌憚のないご意見をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員自己紹介

5 議事

- (1) 本市のごみ排出量の現状について
- (2) 令和7年度の主な取組みについて

《(1)～(2)を事務局より一括して説明》

〈会長〉 事務局からの説明につきまして、委員の皆さんからご意見やご提案、ご質問がありましたらお願いいたします。

〈委員〉 埋立の最終処分の量に触れていましたが、今の進捗や方向性、また、民間への委託や最終処分場を探すときにどのぐらいの段階で進めていくのかというところ、埋立のことについて詳しく聞かせてください。

〈事務局〉 ご意見ありがとうございます。最終処分場の状況ですが、埋立率は令和4年度末が86.3%、令和5年度末が91.1%、令和6年度末が96.2%という状況です。もともと令和8年12月を期限としていましたが、令和7年の4月にドローンを飛ばして詳細測量を行ったところ、100%になるのは少し早まると見込んでいるとのこと。その後の埋立ごみの処理については、処理先につきましては中遠圏域での話になりますので、民間委託による安定的な処理ができるように検討を進めている状況とのことです。

〈委員〉 同じく資料6ページ、最終処分の話について聞かせてください。目標は令和2年度から令和13年度までで主に埋め立てていた焼却残渣を全量民間委託に変えていき80%の大幅減を目指していくということで進んできていると思います。5ページの一番下の記述ではすでに、令和6年度において、燃え殻の全量委託が完了し、埋め立て量がゼロになっているということだと思います。6ページに記載のある令和2年度実績4,341トンのうち燃え殻が3,251トン、残りが1,090トンとなっています。それに対して、令和6年度の埋立実績が2,247トンでそのうち燃え殻はゼロということだと基準年度の2年度に対して、埋立実績2,247トンというのは倍になっていると読めるのですが、この増加している原因はどのようにお考えでしょうか。あるいは、この形だと目標年度に900トンはとても難しいように感じられるのですが、そのあたりについて教えてください。

〈事務局〉 ありがとうございます。令和2年度の最終処分量の4,341トンから焼却残渣分の3,251トンを引いて1,090トンというのに対して、令和6年度の実績が2,247トンとなっているということで、まず、令和6年12月までは半量ずつ一宮への埋め立て処理と民間での資源化処理とに分かれていて、令和7年の1月から焼却灰の全量資源化を始めている状況です。6年度は3か月間のみ全量資源化されている状態です。そのため、令和6年度の2,247トンのうち、焼却残渣は1,516トン、4月から12月までの半量分を含めて1,516トンとなっていますので、2,247トンから1,516トン进行引いて731トン、これが焼却残渣以外の数値となります。埋立ごみと金物などの資源ごみから出た処理残渣の合計にはなりますが、令和2年の目標設定時の1,090トンからは359トン減少している状況となります。

〈委員〉 8ページのリサイクルステーションの排出環境の拡充について、使用済みプラスチック製筆記具というのはボールペンのことでしょうか。ボールペンを回収してリサイクルするのでしょうか。また、PILOT社の方で回収するということですが、PILOT製のボールペンでなくても構わないのでしょうか。

〈事務局〉 そのとおり、ボールペンを回収しリサイクルしてまたボールペンへと生まれ変わります。また、回収とリサイクルもPILOT社で行いますが、対象はPILOT製の製品でなくても可能となっております。

〈会長〉 ほかに本日ご出席の方でご意見、ご質問よろしいですか。本日、欠席されている方からも質問が出ているということですので事務局の方でご紹介をお願いします。

〈事務局〉 2名の方から事前にご意見をいただいていますのでご紹介させていただきます。まず、お一人目の委員からのご意見です。磐田市一般廃棄物処理実施計画の2ページ、3ごみの排出抑制のための方策に関する事項として(1)③ジモティーに出品し必要な方に無料で譲渡する事業はぜひ推進していただきたい。④のおいぐらのサービスもごみとして搬入される前の取組として非常に良いが、ジモティーは搬入されたものから行政側がまだ使えると判断するのに対して、おいぐらは、まず市民側がサービスを使おうという発想になる必要があるためどれだけ認知が広がるかとユーザーフレンドリーな使いやすき内容であ

ることが重要だと思うというご意見をいただきました。委員が言われたように、ジモティーに出品される品物には新品同様のものもあり、不要なものを必要とする方に無料で提供できて、ごみにならずに有効活用されるシステムとして今後も広く利用されていくとよいと思います。おいくらに関しましても、委員からのご指摘のとおり、個人でご利用いただくサービスとなりますので、周知の大切さを感じています。利用しやすさについても大切だと感じており、サービスの案内と利用方法について、広報いわた以外でも周知できる機会を探り、説明会を利用できたらよいと考えています。

次にお二人目の委員からのご意見です。浜松市とスタートアップ企業が今年6月から実証実験中の生ごみ堆肥化コンポストを磐田市でも導入したらどうかについて、委員の皆さんにはこの活動の賛否や考えられるメリット、デメリットについてご意見を聞きたいということでした。職場の磐田市在住の同僚から磐田市の生ごみ対策で行っている家庭用コンポストを全戸配布してもよいのではないか、半額補助しているがアピールが足りないのでは、もしくは何戸かに1台の生ごみ集積所を作ってもいいのではないかという話がありました。集積タイプの生ごみ処理機は周知が広がる、土地がなくても参加可能等のメリットがありますが、誰が管理するのか、周辺住民の理解を得られるかといった課題も多いと思います。導入には行政としてパワーが必要なことと思ひまして、まずは議論できたらということで委員からご意見をいただいています。

〈委員〉 生ごみ専用の回収が豊橋市ではかなり前から導入されています。磐田市で将来的にそういったものを導入するということは検討されていないのかという質問と私も以前、コンポストを購入しました。それも使ってはいるのですが、簡易的な段ボールコンポストを用意したり、自宅にホームセンターで購入した黒土をちょっとしたスペースで貯めて、木枠を付けて土と生ごみと水を入れて日の当たるところに置いたりしています。ちゃんとしたコンポストでなくても堆肥化はされているので、市で実施しているコンポスト講座の頻度を増やしたほうが市民の方には情報として届きやすいのかなと思っています。

〈事務局〉 ありがとうございます。豊橋での取り組みの件に関しましては、他市の先進事例を参考にさせていただきながら、磐田市でも取り入れるようなことがないか勉強させていただきまして、より適切で有効なご

み処理方法についてアンテナを高くして情報収集していきたいと考えています。

〈事務局〉 講座の関係ですが、コロナの関係でしばらく講座が開催できませんでしたが、昨年度から改めて開催し始めた形になります。より多くの機会があればというご提案をいただき、昨年度は交流センターで段ボールコンポストの講座を交流センターと共催という形で行いました。昨年度の中泉交流センターで行った時も非常に好評でしたので、今年度は池田交流センターでもやらせてくださいという話がありました。ほかの交流センターでもやれるようにごみ対策課でPRをして講座を増やしていければと考えています。

〈会長〉 ありがとうございます。素人的には、生ごみを車に積んで毎日どこかに持っていくというのがなかなか…浜松の実証実験の結果を見ていきたいなと率直に思います。自分が運ぶとなったらちょっと…毎日運ぶことや生ごみの水分もあるしなかなか扱うのも嫌だなという気持ちもあるかなと思います。ごみを減らすという意味では、コンポストのメリットがいろいろあるかと思いますが、ぜひいろいろなことにトライをしていくという形で市場調査や観察をお願いします。

〈会長〉 以上で議事は終了になります。ご協力ありがとうございました。

〈事務局〉 本日はお疲れ様でした。以上を持ちまして、令和7年度第1回審議会を終了いたします。ありがとうございました。